# おかえり

ひきみとつながる。
ＵＩターン情報誌 2022.11月

**特 集**

◆遺志を継ぎ、澄川八幡宮の禰宜に
◆ひきみ瓦版　テーマ：賑わい創出
◆交流から滞在、そして定住へ
　●民泊・日帰り体験
　●田舎体験・ボランティア
　●田舎暮らし体験施設
　●就業支援・住まい
　●空き家に関する各種事業

寺戸修二さんと巫女舞を披露した女児たち（写真左から、岡崎唯菜さん、齋藤亜希さん、湟川花乃さん、寺戸梨華さん）

特集

# 遺志を継ぎ、澄川八幡宮の禰宜（ねぎ）に

## 匹見町土井ノ原　寺戸修二さん

**平成30年10月から澄川八幡宮の禰宜として奉仕する寺戸修二さん（61）。年3回の神事だけでなく、社殿や境内の清掃、長らく途絶えていた神事や巫女舞の復活と、精力的に取り組んでいます。**

赤瓦の家並みが美しい益田市匹見町土井ノ原。匹見川を臨む澄川八幡宮は、幼少期の寺戸さんの遊び場でした。神事には、大人に混じって締め太鼓を打ち、曾祖母や祖母からは「神社を大切にしなさい」と言われて育ちました。中学のときに神楽クラブに入部し、卒業後は、太鼓谷稲荷神社のある街の雰囲気が好きで、津和野高校へ進学。今思えば、「神のお導きだった」と思うほど、すべてが自然な流れでした。

寺戸さんの指導の下、巫女舞の練習に励む子どもたち

澄川八幡宮例祭でお祓いをする寺戸さん（写真左から２人目）

### 澄川八幡宮を守りたい

高校卒業後は、国家公務員として広島や島根県内で働いてきました。

澄川八幡宮の禰宜で、中学生の寺戸さんに石見神楽の指導を行った故・藤井文夫さんとは、神事のたびに顔を合わせ、「いずれは跡を継いでほしい」と頼まれ、神職の衣装の場所も教えられるなど、信頼関係で結ばれていました。

平成22年、父・英夫さんが亡くなり、24年、長男の寺戸さんは家族とUターンします。翌25年、体調が優れず、長らく療養をしていた藤井さんも亡くなります。かねてより神職への志を持っていた寺戸さんは、宮司の齋藤大也さん（51）に、「藤井さんの遺志を継ぎ、澄川八幡宮を守りたい」と相談したところ、「是非やってほしい」と背中を押してもらいます。

神職になるには、島根県神社庁益田支部と宮司の推薦を得て、島根県神社庁の行う階位取得のための研修が必要です。当時まだ現役だった寺戸さんは、29、30年の2年間、通算1か月間の研修を受け、30年10月、晴れて神職の資格を取得し、同年12月、正式に禰宜になりました。

### 神事・巫女舞の復活と新たな神事の斎行

寺戸さんは、かつて藤井さんが斎行していた「歳旦祭（さいたんさい）（新しい年の始まりとともに行う神事）」を、およそ10年ぶりに復活したほか、新たに31年からは毎月初めに「月次祭（つきなみさい）」も斎行しています。月次祭では、母の花代さん（85）と社殿や境内の清掃、除草をし、お供えと祝詞奏上（のりとそうじょう）を行い、地域の繁栄と安寧、人々の幸福を祈っています。地域からは、「澄川八幡宮が綺麗になった」と喜ばれています。

また、27年には、県外から子どものいる家族が移住してきたのを機に、巫女舞を10年ぶりに復活させました。今年は9月上旬から練習を開始。週1回、地元の女児4人が寺戸さんの指導で舞い型を修得し、10月8日の例祭で披露しました。

### 人生は1回きり

令和4年3月に定年退職をした寺戸さん。神職として奉仕するほか、同年4月には社会保険労務士・行政書士事務所を開業し、自身の知見を社会に役立てています。プライベートでは、アユ釣りとツーリングを満喫しています。「人生は1回きり。楽しまんと！」と話す寺戸さん。感謝と奉仕の心を大切に、公私ともに充実した毎日を過ごしています。

ふるさとは今――

# ひきみ瓦版

テーマ
賑わい創出

## 匹見上地区

### “おっちゃん”とほっこり😄

地元の盆踊り、みなさんは踊れますか？

匹見上公民館では毎年、匹見っ子が地域の“おっちゃん”たちから教わる盆踊りの口説き練習を実施しています。

長年受け継がれている伝統文化を継承しつつ、世代間の交流を図るこの活動は、合間に交わされる会話や笑顔にほっこりさせられる場面も・・・。

盆踊りの継承を通して、地域の大人と子どもがより深い関係を構築し、地元盆踊り大会の賑わいにもつながる、次世代育成と共に地域の活性化へもつながる活動であると考えています。

## 匹見下地区

### みんなで楽しく【とちの実交流会】

石谷地区の皆さんと匹見小学校３・４年生が一緒になって、毎年秋にとち餅づくりを楽しみます。令和３年で 22 回目になりました。

地域の皆さんは、何日も前から子ども達の喜ぶ姿を思い浮かべながら準備して待っています。

当日は、明誠高校キャリアサポートの生徒も参加し、昔ながらの臼と杵を使った餅つきに挑戦です。学校の先生や駐在さんも、ここが力の見せ所なので頑張ります。

お見送りで、「今年も元気を貰えたのでまた頑張れる」と孫やひ孫のような子ども達にいつまでも手を振ってお別れをしました。

## 道川地区

### ひまわりと一緒に笑顔も満開

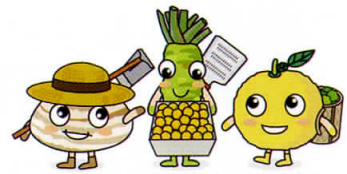
「ひまわりを咲かそう！地域に元気と笑顔を」を合言葉に、昨年から農地管理グループ「道川地区活動組織」が中心となって、国登録有形文化財「旧割元庄屋　美濃地屋敷」前の田んぼでひまわりを育てる活動を行っています。

今年は６月 12 日に、地区内外から 40 名以上の方が参加して種まき作業を行いました。ちょうどお盆の帰省時期に満開を迎え、立ち寄った人たちが写真を撮る姿が多く見られました。

コロナ禍で地区の行事も中止になる中、ひまわりがたくさんの人に笑顔を与えてくれました。

# 交流から滞在、そして定住へ

ますだ暮らしキャラクター



ぐりお　わさまる　ゆずりん

## ちょこっと匹見を体験したい方は……（令和４年４月末現在の情報です）

### 民泊「三四四（みよし）」

体験内容：料理体験（押し寿司、巻き寿司、郷土料理「うずめ飯」、手打ちそば、餅）、布ぞうり作り 等

料　　金：１泊２食付 7,000 円（食事は共同調理）※体験料は別途必要

住所・連絡先：益田市匹見町道川イ 214　TEL/FAX 0856-58-0020（三好）

### 日帰り体験「内谷（うつだに）とちの郷」

体験内容：料理体験（わさび漬け、こんにゃく、とちもち）、わさび収穫体験

料　　金：直接お問い合わせください

住所・連絡先：益田市匹見町石谷ロ 561　TEL/FAX 0856-56-0589（村上）

わさび収穫体験

### [田舎体験]

匹見町では、豊かな自然を活かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。

稲苗箱運搬作業

### [ボランティア]

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。

## もっと匹見に滞在したい方は……

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限付きのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

〈使用者の条件〉

(1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人

(2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

〈使用期間〉 １ヶ月以上３年以内

〈使用料〉　令和４年 10 月末現在

| 施設区分 | 戸数（空き戸数） | 使用料（月額） |
|---|---|---|
| 単身用（1DK） | 2（1） | 8,100 円 |
| 世帯用（3DK） | 2（0） | 16,000 円 |

※１部屋に１台分の駐車スペースを用意しています。

〈使用について〉

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。（空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。）

## 匹見への定住をお考えの方は……

### ●ＵＩターン相談窓口

匹見への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことやわからないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。

**●住まい**　空き家や公営住宅をご紹介します。

### 空き家に関する各種事業

#### 空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とＵＩターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。

この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、ＵＩターン希望者にそれぞれ登録してもらい、益田市役所及び匹見分庁舎が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

#### 益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の３分の１以内（上限30万円）を①空き家の購入者または入居者（ＵＩターン者に限る）、または②ＵＩターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限ります。


定住・ＵＩターンに関する問い合わせ先

益田市役所匹見分庁舎 匹見地域総務課　電　話：0856-56-0300　FAX：0856-56-0362

〒698-1211 益田市匹見町匹見イ 1260　ホームページ http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/